

令和8年3月

## 令和7年度 すずたこども園における自己評価について

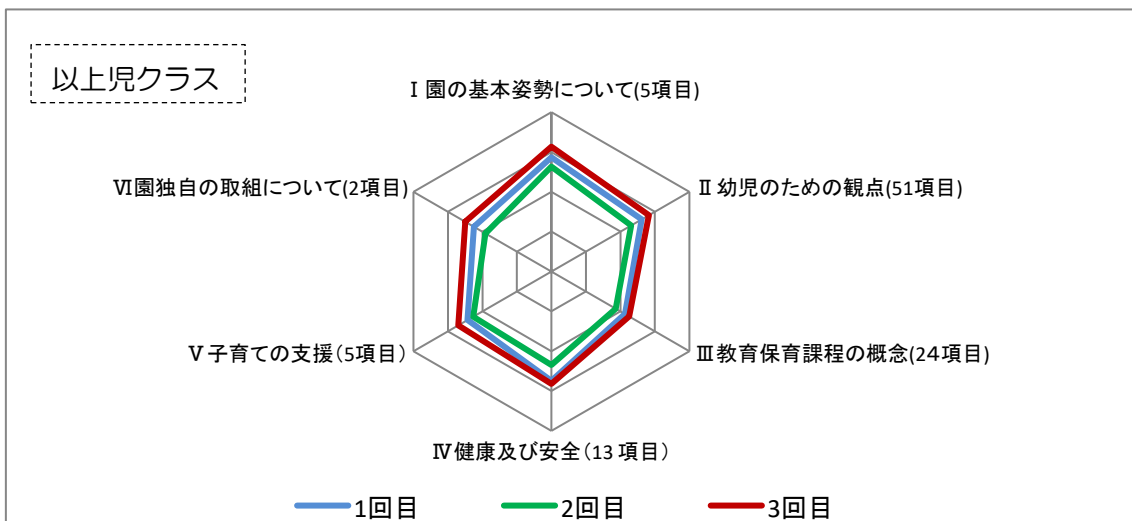
認定こども園  
すずたこども園  
園長 廣瀬 昌浩

令和6年度より見守る保育の理念を基に、新しいチェックリストでの自己評価を行っています。

自己評価を行う上で、子どもが今をよりよく生きているか、きちんとした発達を遂げているかという子どもの姿から自らの保育を振り返ることが大切です。また、子どもに何かをさせるのではなく、その子の周りにきちんとした発達を促すような環境を用意できているか、その環境のなかで子どもが生き生きと活動できているか、という評価の対象を人・物・空間を含めた子どもを取り巻く環境と、そのなかでの子どもの姿を振り返り見直していく必要があります。

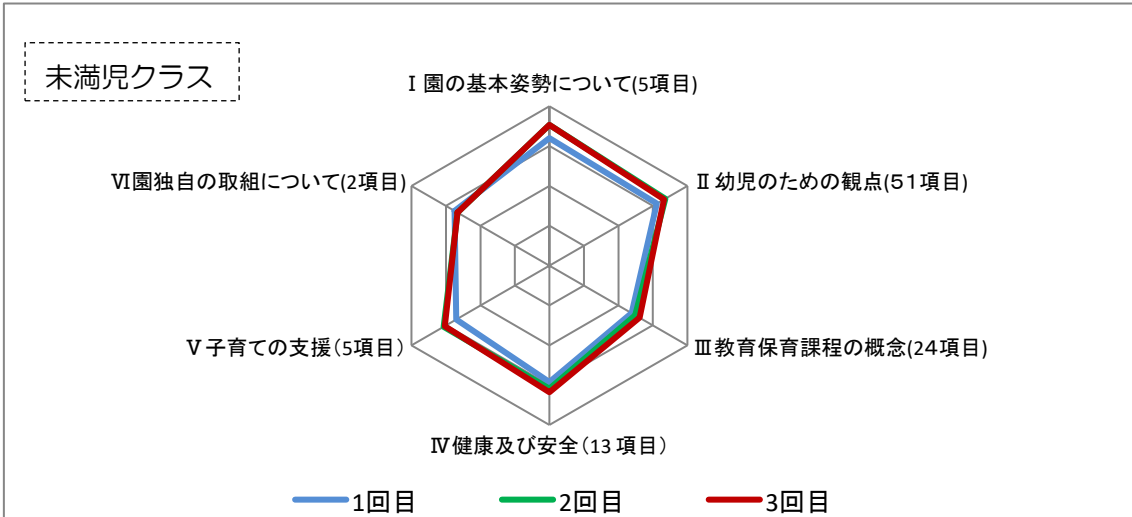
2回目となった今年度は、以上児フロアと未満児クラスで昨年度の保育を振り返りながら、それぞれの発達にあった環境づくりに努めました。

令和7年度は、常勤保育教諭等以上児クラス7名、未満児クラス（看護師含む）9名で年3回実施し、個人の評価を総合し園全体の評価として結果をグラフにしています。その結果を公表いたします。



以上児クラス全体での結果は、実施回数毎にレーダーチャートが大きく広がっています。回を重ねる毎に少しずつ職員の取り組み姿勢や意識も高まり、チェックリストの成果が現れた結果と思われます。しかし、個人の結果にはばらつきが見られたので、以上児フロア的环境について職員間の話し合う機会を増やし、フロア内で協力し取り組んでいくことが課題となっています。

今後も研修を受講したりフロア会議等を重ねながら個人の資質を高め、来年度は更にレーダーチャートが広がるよう、取り組んでいきたいと思っております。



未満児クラスのレーダーチャートは、ほぼ重なって見えますが、3回目のレーダーチャートが少し広がっています。また、以上児フロアのレーダーチャートと比較すると、未満児クラスの方が若干ですが広がりが大きくなっています。未満児クラスは、保育者間の話し合いや保護者と直接関わる機会、発達相談なども多く、保育者としての認識も高まっていると思われまます。

子どもの発達段階に合った環境を提供し、その中で個々の成長を見守り「子どもの最善の利益」とは何かを常に問いかけながら、保育に取り組んでいくことが保育者としての成長へと繋がります。来年度も子どもの生きる力を育む環境を整え、保育者一人ひとりの質の向上を図り、その努力を園全体として有効なものにできるよう取り組んで参りたいと思います。

自己評価の結果は毎回園内に掲示し、園内研修でも報告し総評を行っています。自己の能力を判断すると同時に自己の不足の部分を認識したり、個人の評価を総合することで、園全体の傾向を見ることができました。幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容もしっかり理解しながら、園独自の見守る保育を構築できるよう努力して参ります。